

イベリア半島の言語分布

● 言語と方言

「言語とは(周りの体系と)はっきりした差異をもち、高度に均一化され、重要な文学的伝統をもつ言語体系で、場合によっては周りに存在する同起源の体系を圧倒することがある。」(マヌエル・アルバル)

参照: 川上茂信「多言語国家スペイン」(立石博高・中塚次郎
編著『スペインにおける国家と地域』、国債書院、
2002年)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

イベリア半島の言語分布

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

- 言語弾圧の「記憶」
- 1978年憲法の言語規定
- 「言語正常化」の動き

あっと! @ データ

7000語、学びきれない

地球の推計人口は65億を超えたいが、一体いくつの言葉話をしているのだろうか。フト気になったが、数えるのは簡単ではない。たとえば「おーきに」と「ありがとう」を別の言語とはいえない。

言語学的には互いに通じるかどうか、方言と言語を区別する基準だ。しかし、北海道大の加藤重広助教授は「沖縄の言葉がわかりにくくても、私たちは沖縄語とは呼ばない。政治的、地域的な要素もからむ」という。スウェーデン語、デンマーク語、ノルウェー語を話す人はお互い9割方わかるそうだが、同じ言語とは呼ばない。

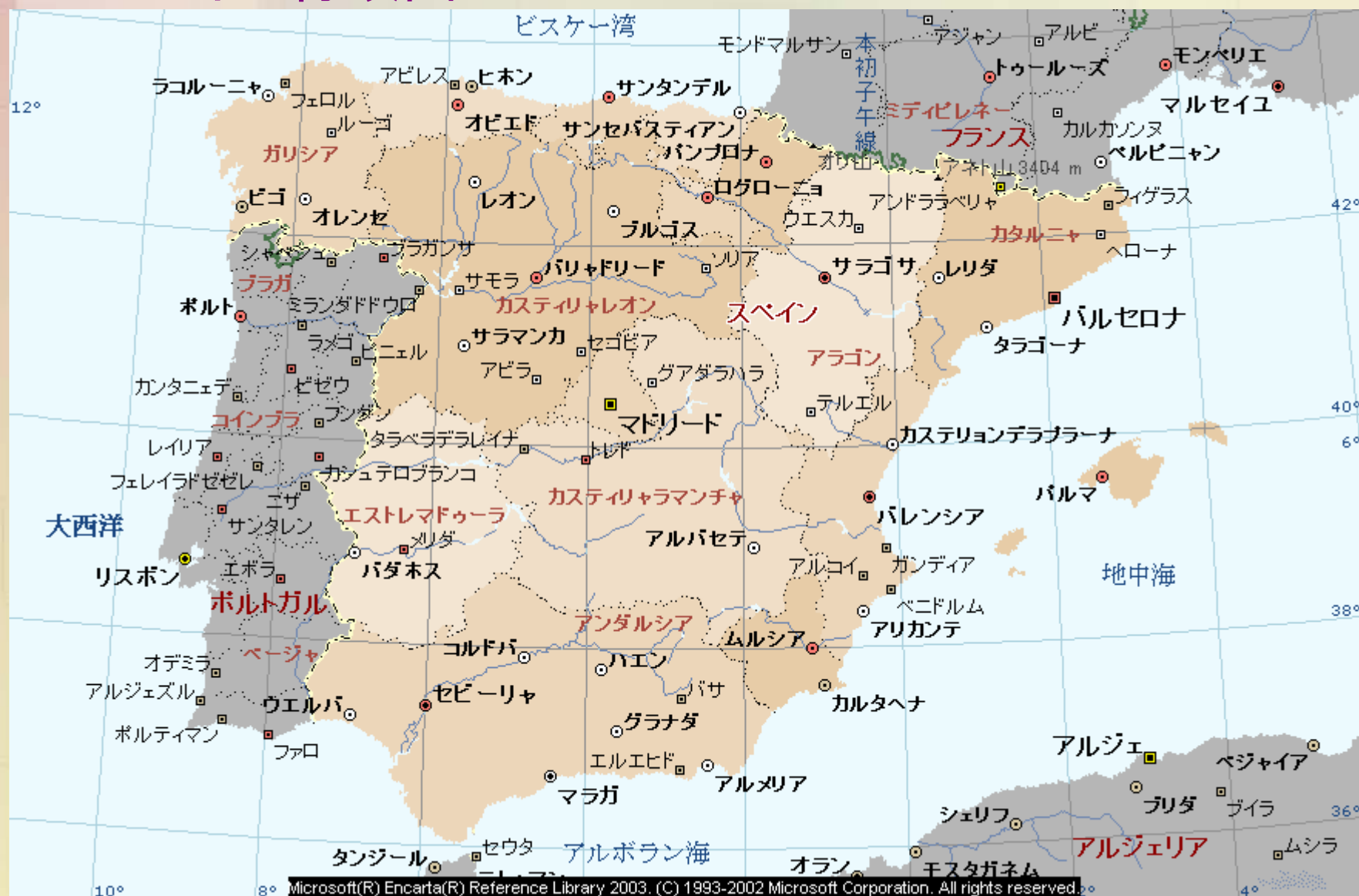
ところが、言語学界で有名なウェブサイトEthnologue最新版の分類は思いのほか細かい。日本ではアイヌ語や、北部・南部奄美大島語、中部沖縄語、徳之島語など16言語が使われていることになっている。世界の言語の数は6912で、国単位ではパプアニューギニアの820が最多。人口は560万なので、1言語あたり7千人だ。

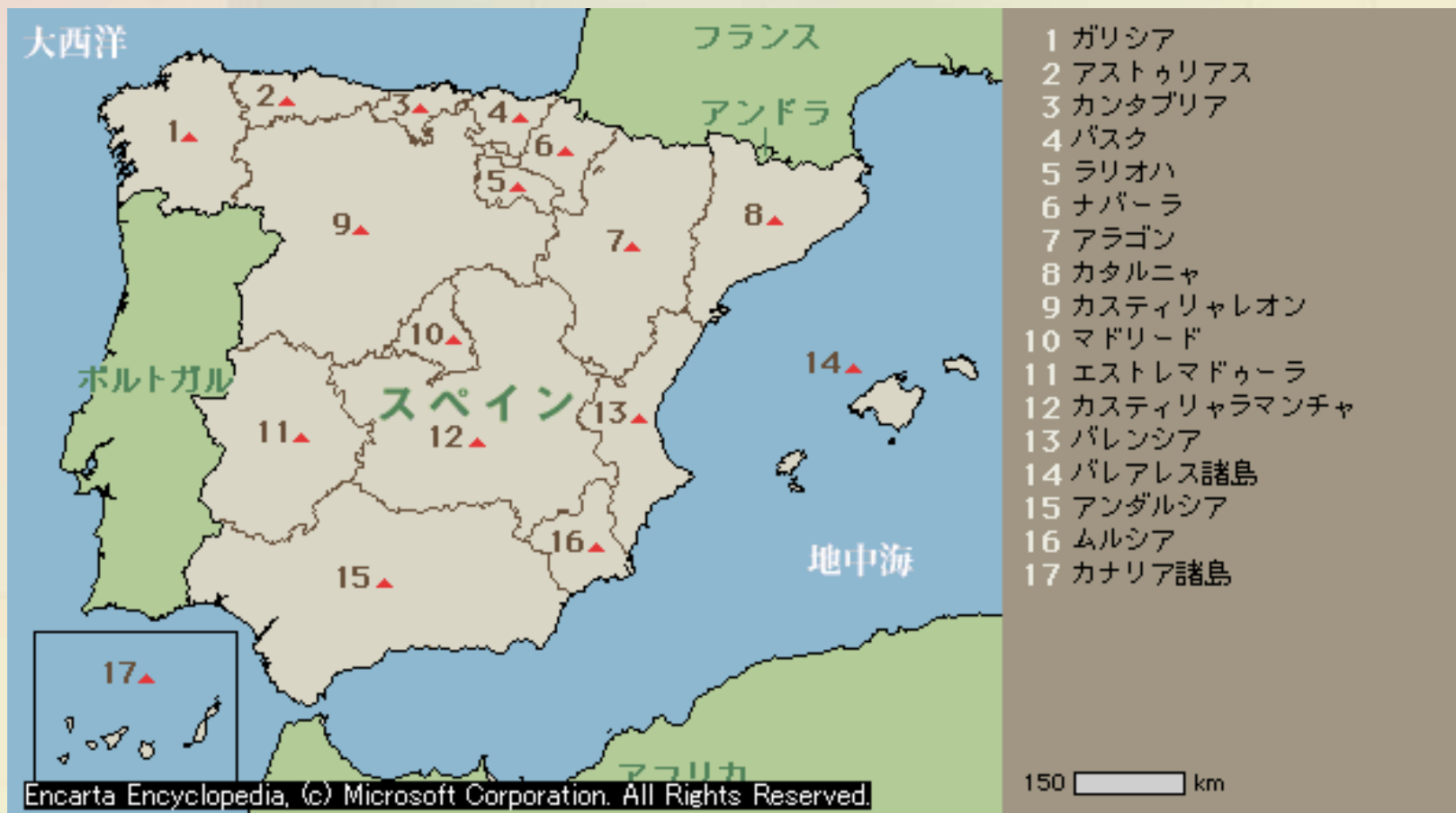
ちなみに三省堂の『言語学大辞典』は約3500の言語を収録している。(勝田敏彦)

Asahi Be on Sunday 060319(12)

<http://www.ethnologue.com>

スペイン行政図





ひとつではないスペイン語

一般にスペイン語として、わたしたちが知っているのはスペイン中部のカスティーリャ地方のことば、カスティーリャ語のこと。

それ以外に、スペインの各地方ではさまざまな言語が公用語として使われている。スペイン北東部ではカタルーニャ語、北西部ではガリシア語、そして北部ではバスク語など。

かつて、フランコ総統がスペインを支配していた時代（1939～75）には、こうした地域の言語を話すことは禁止されていた。しかし、フランコ政権が倒れたあと制定された憲法によって、地域独自の言語も公用語として使うことが認められ、学校でも教えられるようになった。



スペインの言語地図

スペイン各地の代表的なことば

	カスティーリャ語	カタルーニャ語	バスク語	ガリシア語
おはよう	ブエノス ディアス Buenos días	ボン ディア Bon dia	エグ ノン Egun on	ボス ディアス Bos días
こんにちは	ブエナス タルデス Buenas tardes	ボナ タルダ Bona tarda	アラチャルデ オン Arratsalde on	ボアス タルデス Boas tardes
こんばんは	ブエナス ノチェス Buenas noches	ボナ ニット Bona nit	ガウ オン Gau on	ボアス ノイテス Boas noites
ありがとう	グラシアス Gracias	グラシエス Gràcies	エスケリカ スコ Eskerrik asko	グラシアス Gracias
さようなら	アディオス Adiós	アデウ Adéu	アグル Agur	アデウス Adeus
はい・いいえ	シ / ノ Sí / No	シ / ノ Sí / No	バイ エズ Bai / Ez	シ / ノン Sí / Non

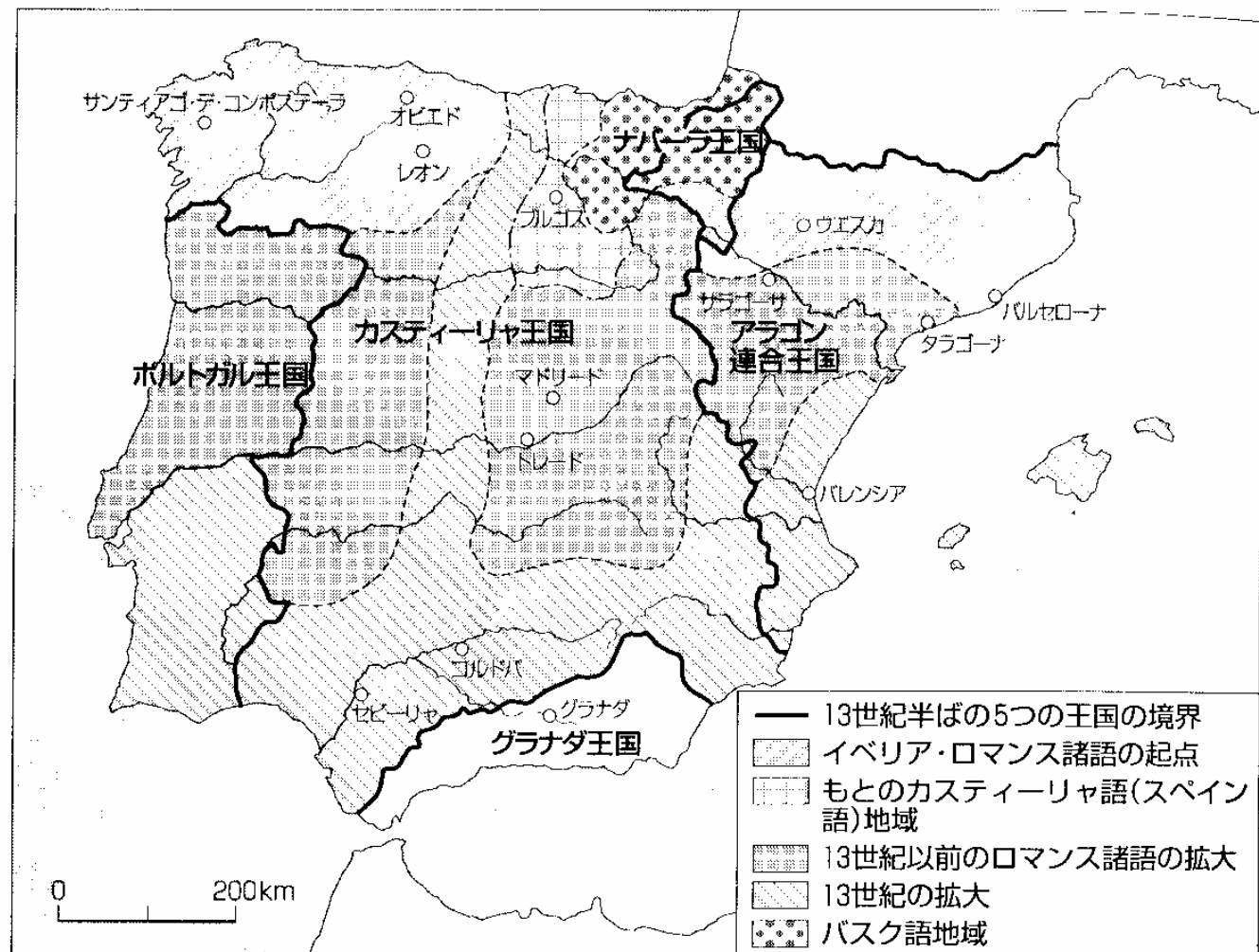
スペイン語、ポルトガル語は世界的な言語？

大航海時代（15～17世紀前半）、スペイン・ポルトガルはアジア・アフリカ・南北アメリカの国を次々に征服し、植民地とした。その後、植民地だった国々は独立をはたしたが、その時代の遺産として、これらの国々では今でも、スペイン語やポルトガル語が公用語として使われている。また、アメリカ合衆国などでも、ラテンアメリカからのスペイン語を話す移民が急激にふえてきている。

話す人の数、地域の広さを考えると、とくにスペイン語は世界的な言語といえる。



世界のスペイン語圏（地図中の□）・ポルトガル語圏（地図中の■）の国々



中世イベリアのロマンス諸語の拡大

HABLE BIEN

Sea Patriota - No sea bárbaro

Es de cumplido caballero, que Vd. hable nuestro idioma oficial o sea el castellano. Es ser patriota.

VIVA ESPAÑA Y LA DISCIPLINA Y NUESTRO
IDIOMA CERVANTINO

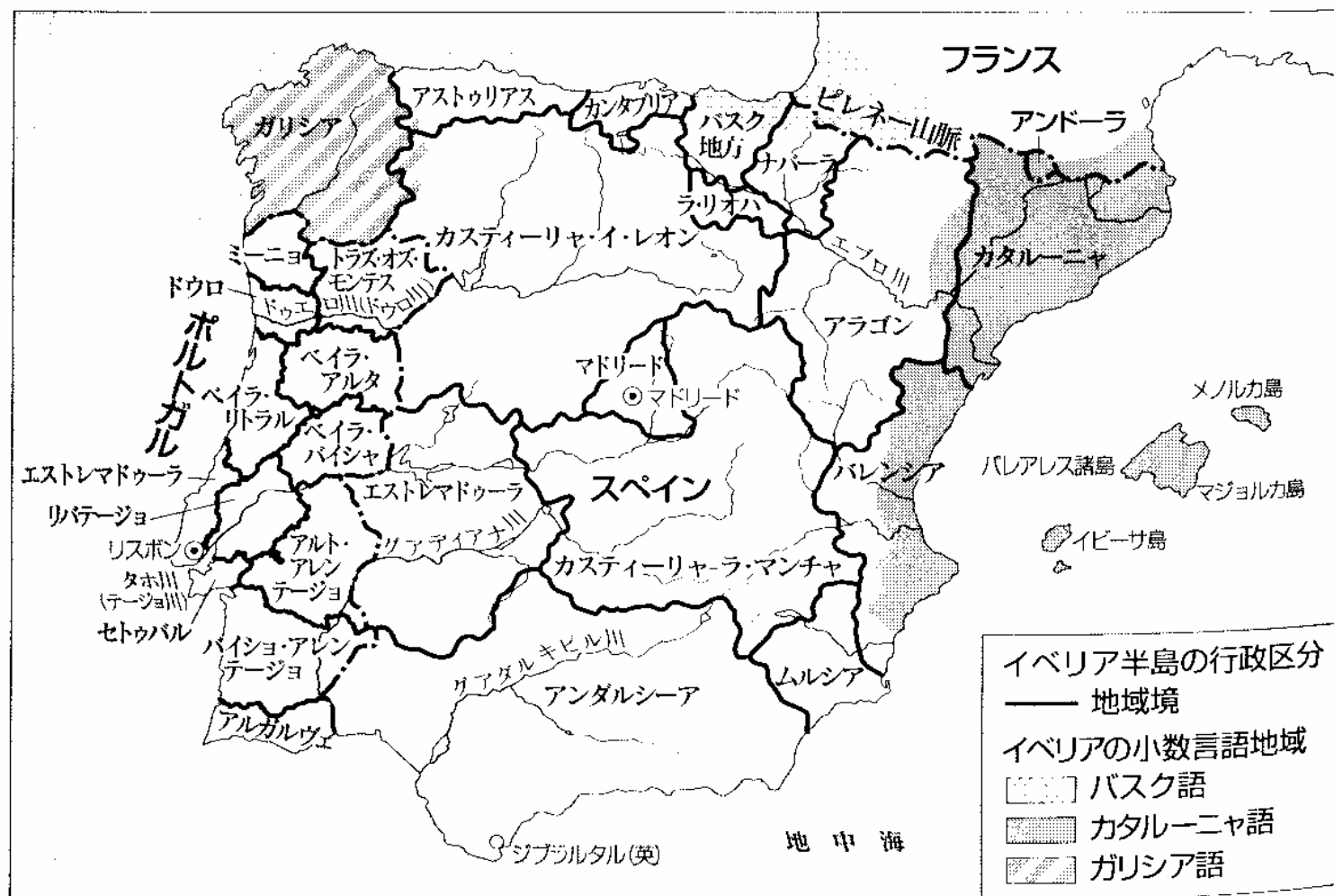
¡¡ ARRIBA ESPAÑA !!

1942年にガリシアで配布された
ビラ。フランコ独裁のもとでは
地域の固有語は抑圧され、セル
バンテスの言葉たる公用語カス
ティーリャ語が強制された。

1978年憲法

第3条

1. カスティーリャ語は国家の公用スペイン語である(el castellano es la lengua española oficial del Estado)。
2. その他のスペイン諸語(las demás lenguas españolas)も、それぞれの自治州内で、自治憲章の規程によって公用語となる。
3. スペインのさまざまな言語様態(modalidades lingüísticas)生み出す豊かさは文化遺産として特別な尊重と保護の対象となる。



現代イベリアの少数言語地域

表 スペインの地方言語の使用状況（1993年）

（社会学調査センターによる訪問インタビュー調査の結果）

（単位：％）

地方名	カタルー ニャ	バレンシア	バレアレス	ガリシア	バスク	ナバーラ
【地方言語名】	カタルー ニャ語	バレンシ ア語	カタルー ニャ語	ガリシア 語	バスク語	バスク語
【人口 ¹⁾ 】（千人）	6,059	3,857	709	2,732	2,104	519
【地方外出身者率 ¹⁾ 】（％）	32.5	24.9	30.2	6.8	28.5	20.0
【回答者の常用言語】						
地方言語	50	34	50	56	20	5
両方	1	1	4	2	1	1
カスティーリャ語	49	65	45	40	78	94
（カスティーリャ語を常用する回答者の地方言語能力別内訳）						
話せる	23	20	16	29	9	4
理解できるが話せない	22	35	23	10	15	8
理解できない	4	10	6	1	54	82
【地方内出身回答者の常用言語】						
地方言語	72	44	72	58	28	6
カスティーリャ語	27	54	22	38	72	92
【地方外出身回答者の常用言語】						
地方言語	18	4	6	24	4	4
カスティーリャ語	80	95	93	76	94	96
【回答者の幼少時における家庭内使用言語／回答者の現在の常用言語 ²⁾ 】						
地方言語	54／67	59／61	75／71	65／63	62／64	58／56
カスティーリャ語	38／30	27／36	19／23	18／33	26／30	30／37
両方	6／1	14／2	5／6	16／2	10／1	12／7
【回答者が義務教育で使用するべきと考える言語】						
地方言語	62	8	24	23	31	8
カスティーリャ語	27	81	60	63	56	84

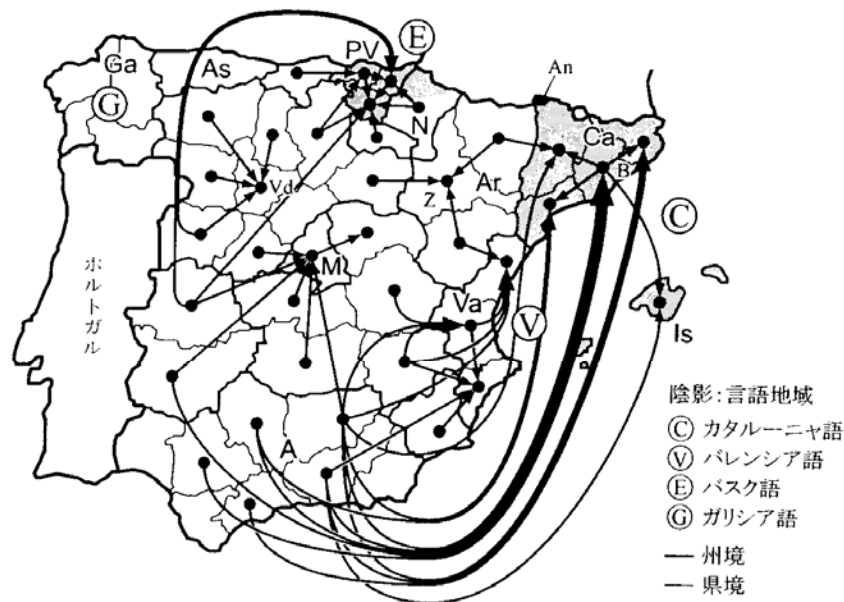
1) 1991年国勢調査による

2) 地方言語を話せる人のみを対象としており、スラッシュの左右の質問は互いに独立している

（注）本表は、スペイン首相府併設の社会学調査センター（CIS）が、1993年4月、6自治州に住む18歳以上男女計4,000人を対象として実施した、訪問インタビュー調査の結果報告書（資料参照）にもとづく。各自治州の回答者数は、カタルーニャ1,007人、バレンシア771人、バレアレス473人、ガリシア681人、バスク615人、ナバーラ453人。なお、地方語の普及度を知るための全数調査としては、国勢調査と同時に一部の州で実施されている言語調査があるが、地方語の知識の側面のみに限られ、使用の側面は扱っていない。

（資料）Siguán, Miguel, *Conocimiento y uso de las lenguas en España. Investigación sobre el conocimiento y uso de las lenguas cooficiales en las Comunidades Autónomas bilingües*, Madrid, Centro de Investigaciones Sociológicas, 1994, 78p.

図 スペインの地方言語の分布と人口移動流

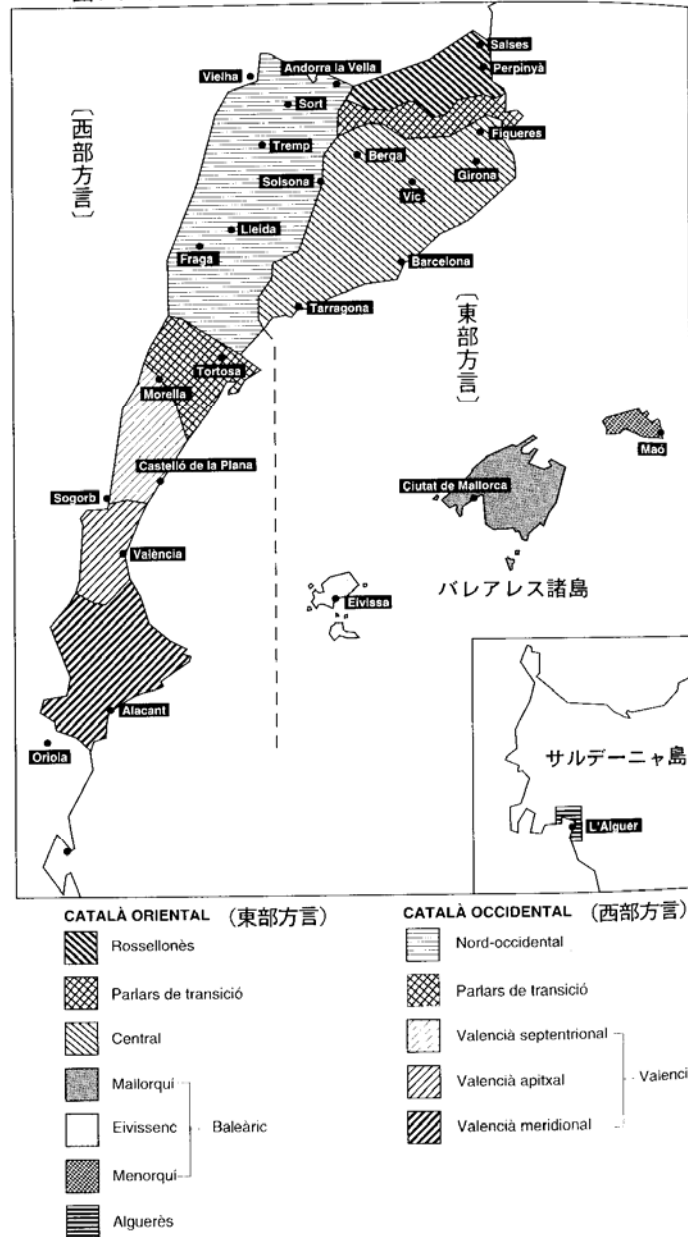


自治州の基本法、自治憲章における地方語に関する規定には、大別して2つのタイプのものがある。ひとつは、地方語をカスティーリャ語とならぶ州内の公用語に指定している場合であり、カタルーニャ(記号 Ca)、バレンシア(Va)、バLEARレス(Is)、ガリシア(Ga)、バスク(PV)およびナバーラ(N)がこれに相当する。カタルーニャとバLEARレスはカタルーニャ語、ガリシアはガリシア語、バスクとナバーラ(一部地域のみ)はバスク語、またバレンシアはカタルーニャ語の方言にあたるバレンシア語を、それぞれ公用語とする。もうひとつは、カスティーリャ語のみを公用語としつつも、州内の言語的多様性や少数言語の存在に明示的に言及し、それら言語にたいする尊重・保護を求めている場合である。アラゴン(Ar)、アストゥリアス(As)およびアンダルシーア(A)がこれにあたり、とくにアストゥリアスの場合には、「バブレ」という地方語の具体的な名称に言及している。また、カタルーニャ北西端のアラン谷(An)では、ガスコーニュ語の方言にあたるアラン語が話されており、カタルーニャ州自治憲章にも、カタルーニャ語とは別段の規定がある。

地方語を公用語に指定している6州のうち、バルセローナ県(B)を中心とするカタルーニャとバスクは、19世紀以降の工業化により代表的な人口流入地となり、バレンシアとバLEARレスでも最近数十年間の人口流入が著しい。対照的に、ガリシアは伝統的な移民送り出し地域である。他方、地方語をもたない人口流入地に、首都マドリッド(M)、バリアドリー県(Vd)、サラゴサ県(Z)などがある。図では、1991年における県外出身者率が25%を超える県について、県人口の2%以上が生まれた県を流線で結んで示してある。なお、カナリア諸島は、記載すべき事項がないため省略した。

資料: Instituto Nacional de Estadística, *Censo de población de 1991*.

図4-1 「カタルーニャ語諸地方」の方言分布を描いた地図



多言語国家 スペイン

参照: 坂東省次・浅香武
和共編『スペインとポルト
ガルのことば』(同学社、
2005年)

